

# 報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和6年1月18日 至 令和6年1月19日	宮崎県三股町 鹿児島県鹿屋市、東串良町	人口問題対策調査特別委員会

令和 6 年 1 月 23 日

報 告 者 乙 津 弘 子

報告事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

## 1 経過

- ・ 1月18日 8:15 川南町役場出発
- ・ 〃 10時～11:30 三股町役場で調査 (説明と質疑応答)
- ・ 〃 14:30～16:00 鹿児島県鹿屋市役所で調査 (説明と質疑応答)
- ・ 1月19日 10時～11:30 東串良町役場で調査 (説明と質疑応答)
- ・ 〃 13:30～16:20 鹿児島県鹿屋市柳谷集落自治公民館で調査
- ・ 〃 19:00 川南町役場着

## 2 感想並びに意見

- ・ ‘18年 平成30年度ふるさとづくり大賞内閣総理大臣賞 受賞、
- ・ 柳谷集落自治公民館 (鹿児島県鹿屋市)

「やねだん」の見学・館長の豊重哲郎氏の講演から。

行政に頼らず住民自治で地域を再生～基本は「住民総出」で稼ぐ自主財源 と雑誌「地域づくり、‘19・3月号」に最優秀賞をと、ある。文中に、「地域でできることは地域で行う」という住民自治の理念が集落民に浸透した。とある。「地方自治」を言うとき、「3割自治」は許されない、補助金の獲得等について行ってしまっていたような気がする。豊重氏は公民館長になって提案したのが「行政に頼らない自主財源での地域おこしです。補助金頼みでは集落も人も育ちません。」四半世紀余り、リーダーとして頑張って来られた。後継者も育っている。感想を書き尽くせないが、「人を大切にする」ことを基本にしていることが、一番心に刻まれている。「集落約330人全員の顔と名前を覚え、関係を築くことから

<p>始めた」と。</p> <p>さらに第二次大戦に出征された18名の名前が出征記念の写真の下に書かれ、戦死された14名の名前も書かれていた。沖縄、広島、長崎、を除いて、日本の多くの地域で出征兵士の名前が公的な場で書かれていない。豊重氏の「人を大切に」思いがよく表れていた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・川南にこんな人物がいないか、と思った時、山本自治公民館長の鑪野さんが浮かんだ。山本の広報「わ」を創刊号から見ているが、山本の人達がいっぱい登場している。笑顔満載の「わ」。鑪野さんも「人を大切にし、人を育てている」。</li> <li>・「中学校問題」が一段落した川南町の次の課題、というか、ここ20年来の課題は「におい問題」。これのヒントになれば、いや知っているのかな、というのが、先の雑誌に書かれていた。「環境整備では、永年の課題であった家畜のふん尿悪臭対策を実施。・・・悪臭公害解決のために土着菌の研究、製造活用で撲滅に成功。Uターン条件にも一役かっています。・・・」</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿屋市 <ul style="list-style-type: none"> <li>・かのや移住サポートセンターの体制～9課14名は、気合が入っていますね。</li> <li>・ファミリーサポートセンター子育てのお手伝いを頼みたい方（利用会員）と、お手伝いをしたい方（サポート会員）のマッチングがいいです。</li> <li>・JR鹿屋駅を模してキープしているのに、残念な気持ちと心意気がよくわかった。</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東串良町 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大隅半島の東にくっついている本当に小さな町！</li> <li>・「平成の大合併」をしのいで！？転出入の社会増減がプラス29人という、元気な町。このベースになっているのは、「東串良町定住促進事業」～50歳以下の子育て世帯をターゲットにした住宅用地の貸付事業。貸付料は月額7,800～11,700円。貸付期間は20年、その後は、無償で譲渡。H15年度以降、R2年まで6次、計193区画発売。R5年9月現在、662名が住宅を建て生活している。町の人口が6203名であるから、正に当たったといえる政策。2代前の町長の発案だと。企業誘致でなく、住宅誘致？近隣の鹿屋市・大崎町・肝付町・志布志市・曾於市等のベッドタウンに特化！住宅地沿いを通る国道220号線沿いに、あつと言う間にコンビニ・スーパー等が続々進出して、良循環になっている。</li> <li>・町役場のロビーに「総合案内」！案内者の後ろにはポスターや案内のプリントが貼ったボード。案内担当は一人。役場の職員全員が1時間ずつ、担当する。今年度からスタートしたそう。東串良町は川南町の半分弱の人口。小さな町の心意気が感じられた。現町長の発案かしら。</li> </ul> </li> </ul>

・三股町

・劇の町～2012年、メディキット県民文化センターが、県下の自治体に「こども劇場」の立ち上げと脚本教室の開催を呼びかけた。門川町と三股町が手を挙げた。演劇が好きな私は、立派なホールがある川南町にも手をあげてほしかったのだが。

脚本教室は、月1回、半年、無料で、近い門川町総合文化会館に。

三股町では劇がよく上演され、観劇のためしばらく三股町に通いました。

三股町では、今も「劇の町」を続けています。

・図書館も充実しているようで、劇と合わせて、子どもたちに素晴らしい文化を提供しています。「幸福度ランキング」全国3位は納得ですね。

・H25年と10年後R4年を比べて、宮崎県で唯一人口増の町でもある。都城のベッドタウンという好立地もあるが、意欲的な「子育て支援」の取り組みの成果であろう。

・元気な市町の視察で、元気をもらいました。

川南町も追いつけそう！ ①可耕率が県下一。 ②災害が少ない。

③新中学校建設が中止になって、子育て・教育・福祉・防災・インフラ整備に費用を使える ④ふるさと納税が潤沢

⑤川南町の「におい問題」を③・④を使って解決していく。 以上

# 報告書

## 出張日程

年月日	出張先	用務
自 令和6年1月18日 至 令和6年1月19日	三股町 鹿屋市 東串良町 鹿屋市串良町	人口問題対策調査 特別委員会

令和6年1月29日

報告者

内藤逸子

報告事項（1,経過・2,感想並びに意見）

1. 経過（1月18日～19日）

①宮崎県三股町

②鹿児島県鹿屋市

③鹿児島県東串良町

④鹿児島県鹿屋市柳谷集落自治公民館

2. 感想並びに意見

①宮崎県三股町は、移住定住促進のための制度や補助金事業を設け、支援体制を整えていた。都城市の中心市街地に近いことを活かしたまちづくりをしていた。

②鹿児島県鹿屋市は、移住支援の為に、「かのや移住サポートセンター」を設置、出産子育て環境充実への取り組みとして、「ファミリーサポートセンター」が設置されていた。

③鹿児島県東串良町は、移住定住促進のための制度と補助金事業が設けられていた。通勤時間100分以内に鹿児島市内、都城市内がある。川南町も宮崎市、日向市、延岡市、西都市があり取り組みが出来る。

④鹿児島県鹿屋市柳谷集落自治公民館は、行政に頼らない自治活動を学ぶ。柳谷集落自治公民館での土着菌を活かした家畜の悪臭対策に興味を持った。川南町でも取り入れて土着菌を活用し悪臭を無くし、住み良いまちづくりに活かしたい。

以上 復命致します。

## 報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 6年 1月 18日	宮崎県三股町	人口問題対策調査特別委員会行政調査
至 6年 1月 19日	鹿児島県鹿屋市 東串良町	

令和 6年 1月 22日

報告者 町議会議員 氏名 蓑原 敏 朗

報告事項 (1. 経過・2. 感想並びに意見)

1. 経過 上記日程により、人口減少対策・子育て支援取組む自治体として、宮崎県三股町・鹿児島県鹿屋市・東串良町、行政に頼らない地域づくりに取り組むやねだん集落を視察研修しました。いずれも説明を受け質疑応答という形でしたが、どこも時間超過するほどでした。

【三股町】 都城市のベッドタウンとして、かつては県内では唯一の人口増の自治体でしたが、今では僅かではあるが人口は減少傾向にあります。そんな中でも県内の住みやすさNo.1の自治体として評価されている。現在の位置に満足することなく、さらなる試みを重ねているのは、他の自治体には負けたくないという向上心でしょうか。移住や子育て政策について、最低でも他の自治体に引けを取ってはならないと奮闘しているのは感心します。特に国の言う過疎地域ではないが、町が指定する過疎地域の人口増加に注力する姿は、国の地方切り捨てやコンパクトシティー政策に抗っているように見えるが、的を得た政策展開だと思いました。周辺部の衰退を仕方のないものと現状是認では、やがて中心部にも波及することは容易に想像できます。周辺部も中心部も共存してこそ地域は守られるのだろうと努力されてる地域存続策は評価できます。

【鹿屋市】 昔も今も大隅半島の中心を担っているが、1市3町合併時は10万人をはるかに超えていた人口も、現在は9万人をやっと維持しているということです。何とか人口減少を止める、あるいはその速度を緩やかにしたいと努力されている。所長ほかの専従職員と他部署との兼務職員を配置し、態勢を整えている。目を引いたのは定住相談員2名を配置して、機動的に動かれている。相談員を中心にPRホームページ作成も作っているが、動画を駆使され静止画より効果的に思えた。子育てについては、特殊出生率の向上に力を入れ限りなく2を超えるようにしたいということでした。現在は1.84だそうです。やはり子供が多く生まれる環境づくりは大変ですが必要です。

鹿屋市は本町とは比べようのない大きな自治体ですが、人口減少、少子高齢には苦慮されており、また力を入れている印象でした。

【東串良町】 鹿屋市と志布志市に挟まれており、有力な企業には恵まれず、本町と似た農業の町です。面白いのは働く場は、両市に任せ東串良町に住んで頂く施策を展開してい

る。町が農地等を買収して、宅地造成し宅地を貸し付けて住宅を町内に建設を促すというものです。毎年借地料を支払い20年後には住宅所有者のものになるという制度設計です。

このプランは成功して、現在は第5次の分譲に至っている。これが契機なのだろうか、民間も後追いで多くの分譲がなされ、人口は微減ではあるが、社会動態がプラスであることは注目できる。

本町同様に町内に高校がなく通学にも補助するほか、奨学金制度にも力を入れている。子育てにも力を入れ、医療費や給食費の援助や出生奨励金などは面白いと思えた。要は町が子育てに力を入れていることは伝わるのではないだろうか。新しく住宅を構えたい若い人にとっては魅力的な町に思えるのではないか。

【やねだん集落】行政に頼らない地域づくりの集落として、あまりにも有名な地域です。輪番制の自治公民館長を豊重哲郎氏が就任して現在の住民主体の地域づくりが出来ている。彼のカリスマ的指導力や経験・知見が今日の国内はもとより韓国でも注目される集落になったと思えるが、豊重氏の行動力や粘り強さはどこから来るのか知りたかったが、故郷を愛する郷土愛と責任感の強さ、さらに、天性の何かがあるのかと想像するだけで、感心するのみでした。

#### 【感想】

どの自治体も人口減少や少子高齢対策は喫緊の最重要課題と位置付けているようでした。自分たちの事業を紹介するだけでなく、あわよくば川南からも情報を収集しまちづくりに活かそうという意欲的姿勢がうかがえた。どの自治体も解答の無いどれが正解かわからない課題解決に必死でもがいているようです。感心するのは、難しそうだからとかこれはやっても無理ではという姿勢は微塵も感じませんでした。これからの自治体運営は人口対策・少子高齢対策が最重要課題に上げられることは疑いようがありません。困難と思える課題にでも果敢に取り組み、成し遂げた自治体だけが持続可能な自治体になるということかと実感しました。なんにでもトライする姿勢が必要と思えます。また、一部の担当部署がその任を負うのではなく、全体として常に問題意識を共有する必要があります。また、多くの自治体で子育てに力を注ぎ、自治体間で競い合っていますが、合計特殊出生率の向上に力を入れている取り組みがされているのは興味を引きました。自治体間で人口誘致合戦では日本全体では同じことです。やはりそれぞれの自治体、日本全体が2を上回る必要を認識すべきです。

本町でも座して死を待つ無策は避けたいものです。

以上復命します。

# 報 告 書

## 出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和6年1月18日 至 令和6年1月19日	宮崎県三股町 鹿児島県鹿屋市 鹿児島県東串良町	人口問題対策調査特別委員会 行政調査

令和6年1月29日

報 告 者 職氏名 川南町議会議員 田中 宏政

報告事項（1. 経過、2. 感想並びに意見）

### 1 経過

1 日目 10:00～11:30 三股町役場にて調査  
14:30～16:00 鹿屋市役所にて調査

2 日目 10:00～11:30 東串良町役場にて調査  
13:30～15:30 柳谷集落自治公民館にて調査

### 2 感想並びに意見

#### ◎三股町

三股町では若年層の人口流出抑制と合計特殊出生率を維持することで、2065年の目標人口を【21,579人】とし、2万人超えを確保するための各種施策に取り組んでいる。まず、住みよいまちづくりのために、昭和27年から町営住宅を建設し、早い段階から定住対策に取り組んでいる。また、学校を核とした地域づくりにも取り組み、過疎地域における小学校維持のため『分譲住宅』を進めている。子育て支援では、『三股町では不安なく子育てができる・三股町は子育てがしやすい・子育ては楽しい』を目標に掲げ、第1子に係る保育料無料や医療費助成、放課後児童クラブ等の施策に取り組んでいる。このような取り組みにより、街の幸福度&住み続けたい街ランキング2021年で、全国3位を獲得し、街の住みこちランキング2023でも宮崎県第1位を獲得することができた。様々な三股町の定住対策・子育て支援の取り組みは大いに勉強になった。

#### ◎鹿屋市

鹿屋市では、「2060年に9万人程度の人口を維持する」と、将来の人口目標を掲げ様々な施策に取り組んでいる。移住促進事業では、「かのや移住サポートセンター」を設置し、多面的に移住者を支援している。仕事プロジェクト・地域プロジェクト・情報発信プロジェクトと3つのプロジェクトに分けて取り組んでおり、移住のための様々な情報を提供している。特に情報発信には力を入れており、ホームページ・LINE・インスタグラム・Facebook・X・YouTubeと情報発信媒体を使い移住者に仕事・住まい・子育て等の情報を提供している点は、特に感銘を受けた。子育て支援事業では、出会いや結婚へのサポート・子育て支援の充実・若者の人生設計へのサポートと多種多様の支援をしている。近隣の自治体と協力し「出会いのイベント」を開催している点が、特に興味深い取り組みであり、参考になった。

#### ◎東串良町

東串良町では、移住定住促進事業や出産子育て支援事業を推進し、人口減少対策に取り組んでいる。定住促進事業では、平成15年から定住促進住宅用地貸付事業を開始しており、令和5年9月1日現在199世帯662名の方が住宅を建て生活しているということです。この事業は、50歳以下の子育て世帯をターゲットとした住宅用地貸付事業であり、20年間の貸付期間で、期間終了後の土地は、居住者に無償譲渡される仕組みになっている。この事業の効果は、一定の割合で減少しているが、他の自治体に比べると人口の減少が緩やかになっていること、子育て世代が多く居住し始めたことで、ここ数年は児童生徒数が増加していることをみると、一定の効果があるといえるだろう。出産子育て支援事業では、子ども医療費助成・予防接種事業・乳幼児健康診査等事業・不妊治療費助成事業赤ちゃんすこやか支援事業等、多種多様な様々な角度から子育てを支援しており、素晴らしい取り組みだと大変感心した。

#### ◎柳谷集落自治公民館

行政に頼らず住民自治で地域再生を行っている中山間地域の集落、柳谷集落(やねだん)では、「地域でできることは地域で行う」という理念のもとに、地域住民が営農活動に自主的ボランティアで参加している。やねだんでは、サツマイモを栽培し、そのサツマイモを原料に焼酎を作り販売すること、土着菌・唐辛子等の生産加工品を販売することで自主財源を確保している。この財源をつかい、高齢者福祉対応・青少年育成対応・環境整備に取り組み、地域再生地域づくりをしている。自主財源確保の活動により、空き家対策・耕作放棄地対策・孤独死対策・悪臭対策等、様々な社会問題解決に繋がっており、素晴らしい活動だと感銘を受け、大いに参考・勉強になった。



# 報 告 書

## 出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和6年1月18日 至 令和6年1月19日	三股町・鹿児島県鹿屋市・東串良町	人口問題対策調査特別委員会研修

令和6年1月27日

報 告 者 河野 禎明

## 報告事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

三股町はこの町のイメージ戦略として、子育てにやさしい街を打ち出してきました。当時周辺自治体がまだ取り組んでいなかった乳幼児医療費助成事業を推進し、保護者に対する自己負担の軽減を図りました。また周辺自治体との差別化を図るため、町独自の財源を企てることで、保護者の保育料の負担軽減に努めるとともに、放課後児童クラブの利用を無料化にし、子供たちの健全育成に重点的に取り組んでいました。さらに、特定不妊治療費助成事業を実施するなど、出産、子育てなどに関する様々な不安や悩みを抱える夫婦や保護者を支援しています。(注、放課後児童クラブの利用料は令和2年4月からは無料でしたが、現在は有料になっております 三股町では、不登校及び不登校傾向にある子供の居場所づくりにひる学校を設立し、学習に不安のある子供たちへの学習支援、そして新しい価値観と多様な選択肢を届けることで、子供たちの自律性をはぐくみ将来は多様な選択肢の中から自分が望む選択肢を選べるように背中を押すような指導をしています指導には、元教員らの、ボランティアが森の子学集会を始めています。過疎地域における小学校維持のため、分譲住宅地を準備しました。梶山小学校校区付近では、平成14年12区画平成19年19区画を用意し、またスクールバスも用意することで生徒減少を止めています。宮村小学校校区では平成23年に分譲住宅地、21区画を用意しました。川南町では多賀小校区山本小校区では、早くから住宅分譲地町営住宅の整備が必要だったのではないのでしょうか 三股町では、新しいシステムを導入して窓口で免許証マイナンバーを提出すれば、簡単な手続きで用事が済ませるようになっていきます。モットーとしては窓口で書かないと言うことです。

鹿屋市東串良町 東串良町の役場の入り口を入ったらすぐに総合案内所があります。そこには1人の職員が町民に説明をしてくれます。1時間ごとに職員が交代で総合案内をしてくれるそうです。とても便利なシステムです。東串良町の議会の一般質問は、YouTubeで見ることができ、町民が町政に関心を持つことができるようになっていま

す

行政に頼らない感動の地域づくり、鹿屋市、柳谷町内会(やねだん 現在柳谷地区は102世帯 211人です平成8年に自治公民館長に選出された現在の豊重さんが行政に頼らない地域づくりのために、最初耕作放棄地を利用して芋作りを始めました。芋作りは、地区民がボランティアで協力し収穫した芋は焼酎を作ることで収益を上げることができました。芋は無農薬で作ったので、焼酎は評判を取りました。マスコミで取り上げられたこともあり、1ヵ月で売り上げが7,000,000と言う月もありました。柳谷地区においては、畜産による悪臭があり、地区民から苦情が上がっていましたが、家畜、糞尿の悪臭対策に土着菌を利用し、臭いを低減させました。土着菌を作るのは大変な作業が伴いますが、地区の方が一体となって作り、牛豚鶏の飼料として使うようになりました 川南も悪臭問題がありますが、土着菌は非常に参考になると思います。土着菌とは山や田畑に生息している好気性の微生物を総称して言うが私たちの使用している。微生物は糸状菌である。米ぬか100%の原料に水分調整。糖化作用の促進を行い、種菌の発酵の確認の後40度以上に発酵熱が上がったら、毎日手による攪拌作業が必要になる。

# 報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和6年1月18日	北諸県郡三股町	行政調査研修
至 令和6年1月19日	鹿児島県鹿屋市及び串良町	

令和 6年 1月 23日

報 告 者

児玉 助壽

報告事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

1 経過 令和6年1月18日午前8:30分川南役場出発、三股町AM10時着  
研修昼食後鹿屋市役所PM13:30分着後研修、PM15:30分に終了。PM16時大蔵ホテル  
到着。翌時 AM9:00 研修先東串良町出発 AM10:00  
着後研修を受け研修後昼食その後 PM13:00 鹿屋市柳谷町内会 (やねだん) にて  
地域再生行政に頼らない「むら」おこしについて自治公民館長豊重哲郎氏の  
地域おこしリーダーとしての熱い心構え実践講演を聞き感動 PM16:00 帰途に着き  
PM18:45 川南町役場に到着

2 感想並びに意見

第1日三股町において住みこち県内1位になるための(1)移住支援、定住促進取り組み  
状況について(2)出産、子育て環境充実への取り組み状況についてを伺い(3)質疑意見交換  
を行う (感想) 都城市や宮崎市に隣接しており、ベッドタウンとして人気がある。  
アクセス面 宮崎空港まで (高速道) で約40分、鹿児島空港まで (高速道路) 約  
1時間、(車) で山之口スマートICまで約15分、都城ICまで約15分。都城志布志  
道路 (梅北IC) まで約15分 (船) 宮崎フェリーターミナルまで約50分 (高速道路、  
一ツ葉有料道路) 志布志港フェリーターミナルまで約1時間 (都城志布志道路) など  
良好なアクセスの地の制もありますが三股町は全国の小規模自治体が平成の大合併で  
混乱する中で一早く合併せず自主自立を選び、町の中心地に行政機関施設等を集中させ  
るコンパクトシティ化に取り組み経費削減を行うとともに町単で平成9年過疎化を抑制  
するために過疎地域定住促進奨励金事業を実施するなど子育て定住施策を構築してきた  
結果が1975年 (S50年) 以降人口が増え続けています。全国的に人口減少が進展



# 報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 R 6 年 1 月 1 8 日 至 R 6 年 1 月 1 9 日	宮崎県三股町 鹿児島県鹿屋市・東串良町	人口問題対策調査 委特別委員会

令和 6 年 1 月 2 8 日

報告者 職氏名 中村昭人

報告事項（1. 経過、2. 感想並びに意見）

1. 経過

2.

1 日目 8 時 15 分川南町出発 → 三股町役場 → 鹿屋市役所 → ホテル

2 日目 ホテル 9 時出発 → 東串良町役場 → 串良町柳谷自治公民館 → 川南町

2. 感想並びに意見

## ① 宮崎県三股町 企画商工課、福祉課

三股町は人口 25,470 人の、都城市や宮崎市に隣接しており、ベッドタウンとして人気のある町であり、大東建託（賃貸未来研究所）が発表した 2023 年「街のすみこちランキング」で 4 つの因子（行セサービス・親しみやすさ・物価家賃・防災）で県内第 1 位となっている。また、町のイメージ戦略として「子育てしやすいまち」を打ち出し、様々な子育て支援を行ってきた。また平成 25 年～29 年の人口動態統計の合計特殊出生率で、全国平均が 1.43%、県が 1.71%となっているなかで、三股町は 1.87%と県内で最も高い水準となっている。その要因となる取り組みについて研修を行った。

「主な支援制度」

### ・フリースクール「ひる学校」

民間の団体「タテヨコナメ」が主催し、地域の様々なコミュニティ施設を活用している。社会福祉協議会が問い合わせ先となっている。定員 20 名、年会費 20,000 円、月会費 15,500 円。小学校 1 年生～高校 3 年生（18 歳まで）。

### ・ファミリーサポート事業

会員数 433 名（依頼側会員 311 名）（提供側会員 79 名）（両方 43 名）

「令和4年度助成実績」367件、378時間

子供の習い事などの援助(207件)が最も多く、次いで保育施設への迎え・預かり(74件)と続く。

#### ・支援対象等児童見守り強化事業 「みまたん どうぞ便」スキームの活用

令和2年10月より事業化。要保護・要支援児童として登録のある支援対象者のほか、子育て世帯の困窮解消も目的として、町が必要と判断した児童も対象に三股町社会福祉協議会が実施する「みまたん宅食 どうぞ便」のスキームを活用し、居宅訪問機会等による見守り体制の強化を図っている。

「令和4年度実績」

実施回数12回 延べ対象世帯数872戸、延べ児童数1,732戸

#### ・支援対象等児童見守り強化事業 プラットフォームとしての社会福祉協議会

食材提供を発端に保護者の困りごとや悩みの聴取を行うほか、学習支援等の他事業・サービスへの接触機会につなげる展開が図られている。「どうぞ便」を主催する社協の多様な事業展開が、多くの選択肢となり奏功。どの事業にも同じ顔が見える安心感にもつながっている。

「令和4年度実績」

延べ相談受理131件(健康に関すること93件、家庭や子ども34件ほか)

延べ支援具体化への展開3,669件(訪問・家庭への介入による支援2,017件、学習への支援841件、不登校などに対する支援576件ほか)

#### ・その他の支援策

過疎地域定住促進奨励金「新築・購入奨励金」「転入・転居奨励金」などの移住定住支援を行っている。

わが町でも生活が大変だと感じている18歳以下の子供がいる家庭に月に1回無料で食料を届ける事業「もぐびよ便」を社会福祉協議会が行っている。フードロスへの取り組み(お変わりないですかなど声かけは行っている)での展開ではあるが、三股町の取り組みを参考に見守り要素を取り入れるなど、発展的な継続が可能ではと感じた。

## ② 鹿児島県鹿屋市 地域活力推進課

鹿屋市は人口99,672人の鹿児島県大隅半島のほぼ中央に位置し、古くから大隅地域の交通、産業、経済、文化の拠点としての役割を担っている。本市では「かのや移住サポートセンター」が取り組む施策について研修を行った。

#### ・かのや移住サポートセンター設置

令和2年4月1日に設置。定住相談員を配置し、空き家バンク事業を実施するほか、住まいや仕事、鹿屋市での生活等について、きめ細やかな相談対応を行う。また、医療や介護、保育、農林水産業など、担い手不足となっている分野での支援策の充実を図り、地域が求める人材の移住・定住に取り組んでいる。

体制・・・所長1名（地域活力推進課長）

専従職員2名

兼務職員10名（産業振興課、農政課、畜産課などから横断的に配置）

定住相談員2名

地域おこし協力隊1名

また、民間企業、ハローワーク、地域、宅建協会・不動産事業者と連携しながら就職先の確保や空き家対策などにも取り組んでいる。

「令和5年度主な子育て事業」

・出産・子育て支援応援給付金（予算額1億105万円）

令和5年4月以降に妊娠届をした方・・・届け出時の面談後に、妊娠1人あたり5万円

令和5年4月以降に出産した方・・・出産後の面談後に、こども1人あたり5万円

・高校生応援給付金（予算額1億9848万円）

現在、児童手当の支給対象年齢となっていない16歳～18歳までの子どもを養育している方の経済的な負担を軽減するため、市独自の手当を支給する。

子ども1人当たり5,000円/月

**③ 鹿児島県東串良町 企画課**

東串良町は大隅半島の中部東岸に位置し志布志湾に面する。人口は6,470人、面積は27.78㎢で、ほとんどが平坦地で町全域に農耕地が広がる自然豊かな純農村的な町である。急速に進む少子高齢化や人口流出により町の人口が減少する中、その対応策としての定住促進や各種子育て支援について研修を行った。

・定住促進住宅用地貸付事業

50歳以下の子育て世代をターゲットにした住宅用地の貸付事業である。土地を購入するための経費が必要なく、その分を住宅建築費に充てることが出来る。住宅の建築は土地を借り受けてから3年以内に着手することになっており、期限を過ぎると契約解除となってしまう。貸付料は1坪あたり月額60円～90円、平均130坪で考えると月額7,800円～11,700円となる。貸付期間は20年で期間終了後は無償譲渡される。令和5年9月1日現在、199世帯、662名の方が住宅を建て生活している。

【第1次】43区画（70円/坪）平成15年分譲地

【第2次】14区画（60円/坪）平成18年分譲地

- 【第3次】60区画（70円/坪）平成21年分譲地
- 【第4次】28区画（90円/坪）平成25年分譲地
- 【第5次】46区画（90円/坪）平成29年分譲地
- 【第6次】2区画（40円/坪）令和2年度分譲地

◆合計193区画を分譲

事業効果として、高齢化率36.7%（県内25位）の東串良町において人口増加や人口維持というわけにはいかないが、大隅半島の他の自治体に比べても人口の減少は緩やかになっている。これまでの合計の事業費は8億3800万円で過疎債を活用している。川南町では将来の小中学校の統合整備を模索しているが、住宅用地貸付は学校跡地活用としてとても有効であり、また自治公民館周辺を宅地開発し定住に繋げることも、町全体のまちづくりとして考えるべきである。課題としては、農地転用が可能なのか、また民間事業者との調整などが考えられる。

#### ④ 鹿児島県鹿屋市串良町 柳谷町内会（やねだん）

高齢化が進む中山間地域の集落であった柳谷町内会（通称やねだん）。平成8年にこの集落の自治公民館長に就任したのが豊重哲郎氏（82）である。行政に頼らない感動の地域づくりで知られる「やねだん」であるが、その地域再生の手法について研修を行った。

##### ・土台作り（3・3・3・1の法則）

自主参加者3割、義理参加者3割、無関心3割、反目者1割とし、笑顔と目配り心配り、そして言葉配りに努めた。

##### ・自主財源確保

休耕地を活用したさつまいも栽培、土着菌を活用した飼料づくり、地元の酒造会社と手を組み、集落で作った黄金千貫を使った芋焼酎「やねだん」販売（通販）など、地域資源を使い、集落の住民で汗を流して自主財源確保に取り組んだ。2006年には全世帯に1万円のボーナスを配った。

##### ・集落手づくり施設

土着菌センター、ギャラリー、運動遊具、憩いのステージなど、地域住民の手作りですべての施設を作り上げた。古民家を改修した通称「迎賓館」には写真家や画家、音楽家などが移住してきた。

##### ・リーダー育成「やねだん故郷創成塾」

現場主義発想のリーダー育成を目指し、年に2回（5月と11月・3泊4日）開催。企画力、演出力、財務力、そしてリーダーの心構えを塾生が寝食を共にしながら学んでいく。これまで1000人以上の塾生を輩出している。豊重館長自身の後継者も若い人材が育っていた。

##### ・企業会計の徹底

人財、帳簿、総力戦、そして納税。「やねだん」はみなし法人として納税を行っている。



帳簿は会計担当が行い、申告の際には専門家に報酬を支払って納税する。人件費は原則支払っていない。豊重館長の報酬は館長報酬としての5万円/月だそうだ。

地域づくりは先ず土台づくり、そして人づくりだと再認識。川南町では自治公民館制度に移行し10年が経つが、人づくりがこの10年間で出来ていたのだろうかを考える。だれかがやるだろう・・行政がやるだろうなど、他力的な考えが広がってないだろうか。行政がやるべきこと、地域がやるべきこと、地域にしかできない事を再整理する必要があるのではなかと考える。また「やねだん」で感じたのは、地域づくりの核として子どもをととても大事にしていることだ。孫や子どものことにはおじいさんもおばあさんも笑顔になるのがとても印象的であった。

以上、復命する。

# 報告書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和6年1月18日	宮崎県三股町	移住支援、定住促進の取組状況
	鹿児島県鹿屋市	出産・子育て環境充実への取組状況
至 令和6年1月19日	鹿児島県東串良町	//
	鹿児島県鹿屋市串良町	行政に頼らない自治活動

令和6年1月23日

報告者 職氏名 町議会議員 米 田 正 直

報告事項 (1. 経過・2. 感想並びに意見)

## 1 経過

第1日目 宮崎県三股町

午前10:00～ 三股町役場4階第2会議室において、川南町議会人口問題対策特別委員会の行政視察を行う。(以下、3団体を調査する。研修内容についても同内容である)指宿三股町議会議長の歓迎のあいさつを受け、(1)移住支援、定住促進の取組状況及び(2)出産、子育て環境充実への取組について、企画商工課、福祉課の担当者より説明を受ける。前以て、質問事項について送付されていた件についての答弁の説明をしていただく。特徴的なことは、「街の住みこちランキング」宮崎県内第1位ということである。その理由として、都城市のベッドタウンで、アクセスが良く、治安も自然環境も良く、教育福祉施設が充実して生涯安心して生活できるということにある。その為の施策を諸々構築「子育てにやさしいまち」という町のイメージ戦略として、乳幼児医療費助成事業、放課後児童クラブの利用料無料化、保育料負担軽減の拡充、ファミリー・サポート助成事業特定不妊治療助成事業等が実施されている。移住・定住に対するサポートして、過疎地域定住促進奨励金(①新築・購入、②転入・転居、③定住、④長田小学校区内保育園)を町単独事業として交付されている。

鹿児島県鹿屋市

午後2時30分～ 花牟礼議長の歓迎のあいさつを受け研修に入っていく。鹿屋市は、平成18年に1市3町が合併し、人口10万6千人の人口になったが、現在では、99,000人程となって人口減少の傾向にある。地域活力推進課より、移住定住施策について説明を受ける。特徴的なことは、定住相談員(会計年度任用職員)を配置し、サポートセンター(産業振興課、農政課、畜産課、商工振興課、ふるさとPR課、住民サービス課)を設置し、医療、介護、保育農林水産業など担い手不足となっている分野での支援策の充実を図り、地域が求める人材の移住・定住に取り組んでいる。

平成27年度から移住支援事業が開始されて、これに係る諸々の事業が展開をされている。将来の人口目標は、「2060年に9万人程度を維持する」とあげられている。

## 第2日目 鹿児島県東串良町

午前10時00分～ 役場3階委員会室において、宮原町長、田之畑議長の歓迎のあいさつを受け、企画課、福祉課、教育委員会の担当者より移住定住促進事業及び出産子育て支援事業についての説明を受ける。また、前以て質問事項を送付されていたものについて回答をいただく。人口6,470人の町で、農業を基幹産業としている。この町の特徴的なことは、定住促進事業における住宅用地貸付事業で、一坪当たり月額60円～90円で、全事業区画平均130坪の敷地とすると月額7,800円から11,700円で、貸付期間は20年間で、期間終了後土地は居住者の方へ無償で譲渡されることになっている。平成15年度第一次から始め、令和2年度第6次の計193区画の分譲地が完成し、199世帯、662名の方が住宅を建て生活をされているとのこと。このことは、川南町においても大いに参考にすべき事業であると思う。大規模な国営土地改良の事業をしている我が町において、農業振興地域の除外は非常に厳しいものがあり、後継者等が家を建てようと思っても建てられない現実がある。工夫をして何とか人口減少問題の一助の施策を構築すべきである。

## 鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落自治公民館

午後1時30分～ 自治公民館長の豊重氏より、「行政に頼らない地域づくり」所謂、自治公民館とはいう理念を予定をしていた時間をオーバーするほど熱意ある説明をしていただく。地域住民のフルネームを覚える。集落内での声掛け運動は、地域再生のスタート。歴史を重んじ、人材と自主財源確保。地域の課題解決その一つに畜産の悪臭対策として、関係機関と相談し土着菌の利用。 諸々の地域づくりのための独自の活動がなされ、今では人徳養成と地域リーダー養成を目的とした「やねだん故郷創生塾」が創設され全国から学びに来られているとのこと。

## 2 感想並びに意見

人口問題対策調査ということでの研修であったが、抱えている問題は、どの地方公共団体においても同様であり、それぞれの地域に応じた施策が講じられている。国・県の施策は当然であるが、独自の施策はその団体の財源をどう充てるかである。人口が維持される若しくは増やすということは、出生率を高めることにあり、若者が子育てしやすい、住みやすい環境を作ってやるのが重要であり、それは、福祉、教育、働く場所であったりする。

その前段として、若い男女が触れ合う機会を場を与えることが重要である。その為にはイベント等の開催は重要となってくると思われる。

※ 自治公民館活動のやねだん集落の研修は、今川南町で抱えている自治公民館の課題解決の一助にするため、大変参考になった。

# 報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和6年1月18日	宮崎県三股町	人口問題対策調査
至 令和6年1月19日	鹿児島県鹿屋市東串良町	

令和 6年 1月 26日

報 告 者 小嶋 貴子

報告事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

## 1 経過

1月18日

マイクロバスにて8時15分役場出発。

三股町役場を経て鹿児島県鹿屋市役所へ行く。

1月19日

マイクロバスにて東串良町役場を経て、串良町柳谷地区（やねだん）に行く。

## 2 感想並びに意見

三股町ではイメージ戦略として、平成19年から子育てにやさしい街づくりを打ち出し  
てきた。

10年ほど前まで私も住んでいたが「住むなら、家を建てるなら三股がいいよ。土地は  
安いし、自然もあるし、子育てしやすよ。」と言われていた。実際、友人の何人かは三股  
町に家を新築し、移住した。都城のベッドタウンとして地の利もあり、早くからの取り  
組みがよかったのだと思う。

鹿屋市は、子育て政策等、移住促進に取り組んでいた。

自衛隊航空基地があり、近隣の市等へのアクセスもよく、ここでも地の利があること  
を感じた。

串良町では、子ども子育て事業等もされていたが、印象に残ったのは、50歳以下の子  
育て世帯をターゲットとし、住宅用地の貸付事業をしていることだ。

町が土地を買い上げ、区画整理をし、低額（90円/坪）で貸付、期間20年で終了。  
土地は居住者に無償で譲渡される。

この計画はうまくいき、大型店舗等も作られるなど、さらに利便性も良くなっている。

最後に行ったのが柳谷町内会（やねだん）。

行政に頼らない感動の地域づくりを実現した町だ。

公民館長に就任した豊重哲郎さんが中心となり、地域の活性化と人口増に取り組んだ。

子育て支援や移住、人口対策などすぐに結果が出ることはない。

他の企画や計画、成功例を学び参考にしながら、川南町は川南町独自のアイデアが必要だと思う。

やねだんの豊重さんが言っている。

「～あわてるな。急ぐな。近道するな。～」

その場しのぎの対策ではなく、今後を見据えて、発案し、忍耐強く実行していくことが大事だと感じた。

# 報 告 書

## 出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和6年1月18日 至 令和5年10月20日	宮崎県 三股町 鹿児島県 鹿屋市 東串良町 串良町	令和5年度人口問題対策調査特別委員会

令和 6 年 1 月 25 日

報 告 者 人口問題対策調査特別委員

職氏名 川南町議会議員 三原明美

## 報告事項（1. 経過、2. 感想並びに意見）

### 1 経過

1月18日 10:00～11:30 宮崎県三股町役場

- (1) 移住支援、定期促進の取組状況について（企画商工課）
- (2) 出産、子育て環境充実への取組状況について（福祉課）
- (3)

1月18日 14:30～16:00 鹿児島県鹿屋市役所

- (1) 移住支援、定住促進の取組状況について（地域活力推進課）
- (2) 出産、子育て環境充実への取組について（子育て支援課）

1月19日 10:00～11:30 東串良町役場

- (1) 移住定住促進事業及び出産子育て支援事業について（企画課）

10月19日 13:30～16:00 柳谷集落自治公民館

- (1) 地域再生&創生 行政に頼らない感動の地域づくり

### 2 感想並びに意見 宮崎県 三股町

昭和6年「都城広域都市計画区域計画の線引き廃止により、旧市街化調整区域内で宅地開発が人口増加の要因となっている。また都市計画税の廃止など都城市という南九州トップクラス都市に隣接しながらも住宅地平均地価は令和4年で1㎡あたり16,100円と旧都城(20,400円)と比べて安く、ベッドタウンとして発展している。やはり隣に大きな都市があるのは強み。またそれに合わせて色々な施策をする事で

ますます人口増になる可能性がある。私は川南町の人口を増にするためには、やはり臭い問題が頭をよぎる。

また子育てについては、「子育てファミリーサポートセンター」があり、その中におもしろい事業がある。それは「おねがい会員」「まかせて会員」があり、町中で子供を育てている感じがする。保育園向かえ、習い事などの送迎をお願いすると「まかせて会員」が動いてくれる。親は助かるだろうな。素晴らしい取り組みだ。信頼関係がしっかりと出来ているのがよく分かる。いいことは川南町もどんどん取り入れてはどうだろうか。

#### 感想並びに意見 鹿屋市

鹿屋市には定住専門のセンターがある。鹿屋移住サポートセンターといい、そのセンターは専従職員2名。あと9人の職員はそれぞれ別の課と兼任。定住相談者にとって他の課を回らなくてもそのセンターで問題解決できるのは無駄な時間が省けてとてもいいと思った。

また、地域が求める人材の移住、定住に取り組んでいるのもとてもいいと思う川南町でもやって欲しい事業。また、鹿屋市の子育て支援の取り組みでは、出会いや結婚へのサポート。子育て支援がある。

子育て支援は川南町でも力をいれているが、「出会い」ここも大事。ここにも力を入れるべきだと思った。

#### 感想並びに意見 東串良町

住宅用地の貸付事業は土地を購入するための一時的な経費が必要なく、月額金額も7,800～11,700円と格安だし、20年後には土地は自分の物になるのも魅力的な事業だと感じた。また、子育て支援ではインフルエンザワクチンの助成金が出ている。普通3,000～5,000円すると聞いている。その中の2,000円助成は助かる。コロナとインフルエンザとダブルでかかる子もいると聞いた。子供の体にどれだけの負担をかけることか。やはり助成は大事とつくづく思う。

#### 感想及び意見 鹿屋市 柳谷町内会（やねだん）

行政に頼らない地域づくりをするためには、人間力、才能を引き出すリーダーが不可欠だと豊重哲郎さんの話を聞き強く思った。また目配り、気配り、言葉配りがあれば円満ともいっておられる。私もまったくその通りだと思う。

また、自主財源確保も上手く地域の方を動かされている。そして、私が一番気になったのは、土着菌。家畜ふん尿の悪臭対策に土着菌を利用してにおいを低減。

触ってみたがさらさら、ほかほかしていた。豊重さんの話では、家畜の餌に混ぜるだけ。野菜には土の上にかくだけ。悪臭対策にいいなら川南で使って欲しいものだ。もっと話が聞きたかったが時間がなく残念だった。「やねだん」は有名な所。

たぶん、川南の行政もこの土着菌については把握しているのではないかと思った。

以上、人口問題対策調査特別委員会行政調査をして見て、それぞれの町の特色をいかして素晴ら取組みをされていた。しかし川南町も決して他の市、町には負けていない施策をいていると感じた。以上復命致します。



# 報 告 書

## 出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和6年1月18日 至 令和6年1月19日	三股町・鹿児島県鹿屋市・東串良町	人口問題対策調査特別委員会研修

令和6年1月27日

報 告 者

徳弘 美津子

報告事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

### 1 経過

視察研修委員・・・徳弘委員長・河野(禎明)副委員長・乙津委員・内藤委員・蓑原委員  
田中委員・児玉委員・中村委員・米田委員・小嶋委員・三原委員・河野議長

18日・・・午前・三股町役場。午後・鹿児島県鹿屋市役所

19日・・・午前・鹿児島県東串良町。午後・鹿児島県鹿屋市串良町の柳谷集落自治公民館

18日 午前・・・三股町

### 1 概要

人口・・・25,470人(10,369世帯)令和5年7月1日現在

面積・・・110.02km<sup>2</sup>(東西18km・南北12.7km)

北部・・・工業ゾーンと居住ゾーン 中央部・・・中心ゾーンで公共施設が整う

東部・・・里山ゾーン 都市部に近い田舎暮らし可能 南部・・・田園と調和した居住ゾーン

### 2 移住支援・定住支援の取組みを研修

① 大東建託(株)調査で2023年「街の住みこちランキング」県内1位

② 行政サービス・親しみやすさ・物価家賃・防災 が要素となっている。

③ 過疎地域における小学校維持で複式学級を解決するため、分譲住宅を進め

梶山小学校区に計22区画、宮村小学校区に21区画整備した。

④ 過疎地域定住促進奨励金

・新築・購入奨励金・・・令和2年度29件・令和3年度38件・令和4年度39件

条件・・・過疎地域外(町内外問わない)から過疎地域に転入・転居

夫婦の合計年齢100歳以下で小学生以下扶養80万円交付(3年間に分割)

それ以外は40万円(3年間に分割)

・転入・転居奨励金・・・令和2年度2件・令和3年度2件・令和4年度3件

条件・・・小学生以下を扶養・公営住宅・民間借家

・定住奨励金・・・令和2年度1件・令和3年度3件・令和4年度2件

条件・・・過疎地域から過疎地域に転居、又は元々過疎地域に住んでいた方が

70 m<sup>2</sup>以上の住宅を購入。

固定資産税相当額×3年分 上限 30万円(10万円/年)

⑤ 移住者向け空き家利活用促進支援事業補助金

- ・ 県外移住者・・・空き家等バンク物件で売買が契約締結に上限 160 万円の工事費補助

3 感想並びに意見

都城市・宮崎市に隣接したベッドタウンの地の利と水害リスクの少ない町として住みやすいと言われている。目についたのは過疎地域へのこ入れとして、いかにして、複式学級を打破するためにあえて過疎地に移住させる方策は、コンパクトシティをめざさず、インフラ整備を今後どのように考慮していくのか見ていきたい

18日 午後・・・鹿児島県鹿屋市

1 概要

人口・・・99,373人(世帯数 46,149世帯)

面積・・・448.15k m<sup>2</sup>

合併・・・平成18年 鹿屋市・吾平町・輝北町・串良町 鹿児島市・川内市に次ぎ3番目

2 移住定住施策について

① かのや移住サポートセンター(9課15名)

- ・ 令和2年に仕事・地域・情報発信の3つのプロジェクトチームを設置し定住相談員を配置し空家バンク事業の実施と住まいや仕事、生活などの相談対応し定住促進を推進。担い手不足の分野の支援策に充実をはかり地域が求める人材の移住・定住に取り組む。ワンストップ窓口での相談・支援をはかる。
- ・ 仕事プロジェクト・・・事業所や農業法人・各団体と連携し就業・就農・企業の支援
- ・ 地域プロジェクト・・・移住者の住まい確保や地域の移住舎受入れの体制など移住舎心地よく生活出来る環境作りを地域と一体になって取り組む
- ・ 情報発信プロジェクト・・・鹿屋市の知名度向上の為の情報発信の調整
- ・ 移住実績・・・H27年7世帯・H28年18世帯・H29年10件・H30年12件

R元年8件・R2年23件・R3年14件・R4年16件R5年12月15件

総合計123件249人

② 移住・定住事業

- ・ 空き家等情報登録制度
- ・ 空き家等バンク登録物件改修事業
- ・ 空き家等バンク家財道具処分事業
- ・ 空き家等バンク利用移住者引っ越し費用補助
- ・ 空き家活用支援事業補助金
- ・ 移住活動支援事業補助金
- ・ 子育て世帯移住体験ツアー補助金
- ・ 移住支援金
- ・ テレワーク移住奨励金
- ・ 地元就職支援事業
- ・ 新規就農者就農支援事業

<ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産担い手定着促進事業</li> </ul>
<b>3 子育て支援</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 出会いや結婚へのサポート <ul style="list-style-type: none"> <li>・出会いのイベント開催、新婚生活の費用を支援</li> </ul> </li> <li>② 子育て支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわくキッズ祭り開催、高校生応援給付金</li> </ul> </li> <li>③ 若者の人生設計へのサポート <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフプランセミナー開催、返済不要の奨学金制度の検討</li> </ul> </li> </ul>
<b>4 感想並びに意見</b>
<p>かみや移住サポートセンターの取組みは各関係各課から職員が配置され、一体化した取組みは今後、我が町も考察していただきたい。移住するに当たり、様々な相談事をしっかり寄り添う姿勢が今後の生き残る自治体として必要と考える。</p>
<b>19日 午前・・・東串良町</b>
<b>1 概要</b>
人口・・・6,470人(世帯3289世帯)令和5年7月1日
総面積・・・27.78k㎡
<b>2 定住促進事業</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 定住促進住宅用貸付事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成15年から令和2年度まで3～5年周期で第6次事業を実施</li> <li>・令和5年9月で計199世帯662名が住宅建設</li> <li>・制度の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>50歳以下の子育て世帯に住宅用地の貸付ける。1坪あたり月額60～90円</li> <li>平均130坪敷地で月額7,800～11,700円で貸付け期間は20年で期間終了後は無償で譲渡される。土地を借り受けて3年以内に着手。</li> </ul> </li> <li>・住宅用地の状況(写真)・・・6次事業(6区画) <ul style="list-style-type: none"> <li>宅地面積・・・79,418.65㎡、事業費総額・・・8億3842万2千円</li> <li>1区画の平均坪数115坪～143坪 全区画199世帯</li> <li>賃料総額(20年間合計)・・・4億4,495万4千円</li> </ul> </li> <li>・国道220号線に面した商業施設が建ち並ぶ近隣農地を買い上げ区画整理している</li> </ul> </li> </ul>
<b>3 移住促進事業</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新築・・・最大115万円 購入・・・最大55万円</li> </ul>
<b>4 子ども・子育て支援事業</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 子ども医療費助成・予防接種・乳児健診事業・不妊治療助成・保育所副食費補助</li> <li>② 赤ちゃんすこやか支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出生祝金 第1子5万円・第2子10万円・第3子20万円・第4子30万円</li> <li>第5子100万円・・・令和4年度実績525万円(55人)</li> </ul> </li> <li>③ 赤ちゃん世帯応援・・・月額1,000円を12ヶ月 R4年実績487,000円(73人)</li> </ul>
<b>5 感想並びに意見</b>
<p>行政が農地を買い上げ整備する。民間が行う事業を行う事へ不動産業界からの反発がなかったのか？非常に興味深い。また農地を買い上げとあるが、一次産業で成り立つ</p>

当町では考えられない。土地に対する固定資産は 20 年間は見込めないが住宅の部分としては見込める。町外からの移住が増加する手段としては町が所有する土地の有効活用として今後、取り組めないものか模索していただきたい。災害に強い当町は魅力ある施策だと思う。

## 19 日 午後・・・鹿児島県鹿屋市串良町の柳谷集落自治公民館

### 1 やねだん・・・柳谷町内会

#### ① 行政に頼らない感動の地域づくり・・・地域再生&創世

- ・平成 8 年に 55 歳で自治公民館長に選出された豊重哲郎氏が館長で現在に至る。
- ・平成 8 年の人口は 328 人 129 世帯。高齢化率 45%。  
令和 5 年の人口 211 人 102 世帯。高齢化率 54%。15 歳以下が 29 人。

#### ② 自主財源確保活動・・・補助金頼らない地域おこし

- ・サツマイモを栽培。現在 10 アールに植え、焼酎やねだんをブランド化しネットでも販売。
- ・土着菌(山等に生息している好気性の微生物の糸状菌)を使い飼料として活用し販売

#### ③ やねだん故郷創世塾

- ・毎年 5 月、11 月の年 2 回「地域再生の核となる“人徳あるリーダー”を養成」
- ・2 泊 3 日でやねだんの自主財源をつくる活動やリーダーの心構えを学ぶ。

### 2 感想並びに意見

一度はお話が聞きたかった豊重館長。パワフルで未だに現役でご活躍されている。後継者も決まっているように受けましたが、まだまだ現役続きそうです。時間があれば創世塾に参加したいとは思いますが、2 泊がね(〜)。リーダーとしてではなく地域活動の本来の形が見えれば良いなあと思います。

#### 最後に

今回も事務局にはご苦労掛けました。各議員の質問事項に沿っての研修先の職員の皆様のご対応には、感謝申し上げます。人口減少はどここの自治体も喫緊の課題ですが、人の取り合いになるのでは本末転倒。家庭を持つことの意識が薄れていく事が何より解決すべき事。今の子育て世代に自分たちの生活が素晴らしいんだよ！と自身を持って生きて行けるように応援していきたい。

# 報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和 年 月 日	三股町 鹿屋市	人口問題対策調査特別委員会
至 令和 年 月 日	東串良町 柳谷やねだん	

令和 26 年 1 月 26 日

報 告 者

河野 浩一

報告事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

## 1 経過

- ①1月18日 8:15 川南町役場を出発して 10:00 から北諸県郡三股町にて 11:30 まで  
人口問題対策について説明と意見交換会
- ②14:15 から鹿屋市役所
- ③1月19日 9:45 東串良町役場会議室にて調査意見交換会
- ④13:30 鹿屋市串良町柳谷集落自治公民館にて (やねだん) 説明会

## 2 感想並びに意見

- ①北諸県郡三股町役場にて説明を受け、意見交換会を行った  
その中で放課後児童クラブ利用料が周辺自治体と比べて月 3000~4000 円であるのに三股町は無料。H19 年からは特定不妊治療費助成事業を実施し出産子育てに関する悩み解消につなげている。移住定住者には他の自治体より助成率が多く感じられた。そして県内の自治は全て人口減少なのに三股町 1 町だけが少しではあるが増えている事はすごい事だと思った。
- ②1/18 14:30 鹿屋市役所会議室にて行政視察を行った。  
R 5 年 3 月 1 日現在の人口 99,373 人の人口。  
小・中学生の給食費の半分を助成しており (小学生 1 食当り 125 円、中学生 1 食当り 150 円) を、16 才~18 才までの高校生には月額 5,000 円支給する制度もある。  
そして妊娠時に 5 万円、出産後に 5 万円、合計 10 万円の助成を行っている。  
R 3 年度からは高校生以下の子供の医療費は全額無料として助成を行っている  
こういった事が子育て支援の力の入れ方が表れていると思った。

③1/19 10:00 東串良町役場会議室で調査を行った。

串良町民の人口が昭和30年、11970～令和2年には6237人と半分に減っている  
どこの自治体でも同じ様な事だと思う。この串良町でも小中学校生に給食費月額  
2,000助成、大学専門学校生月3万円、高校生1,5万円の奨学金を出し子供を出産  
した時第1子3万円第2子5万円第3子10万円の助成があり、高校生以下の医療費  
全額無料と力の入れ様が伝わった。

④13:30～鹿屋市串良町の柳谷自治公民館

柳谷（やねだん）の町内会長豊重哲郎さん（昭和16年生83才）のワンマンショー  
であった。「行政に頼らない感動の地域づくり」を掲げ全員参加のむらおこしを  
進めて来た。住民総出で稼いだ自主財源は運動公園の建設、高齢者福祉、青少年教育  
などに使われ、みなし法人として納税もしている。空き家を迎賓館として芸術家を  
誘致し、集落内にギャラリーやカフェもできた。  
人と話をする時相手の目を見て話をする態度が良かったと思うし出席者の販売をして  
いる本や酒を買って帰られたのは良かったと思う。